

SFC新入生「プロフィール」所定用紙（裏）

課題：中学校卒業後から現在に至る期間を中心に、あなたの学校生活やさまざまな活動に触れて自己紹介をしてください。白紙のスペースを自由に用いてあなた自身を語り、あなた自身を表現してください。

学部（総合政策学部 環境情報学部） 学籍番号（70060330）
氏名（^{ワダ ユウスケ}和田 裕介） 西暦（2000）年（^{県立湘南}高卒）入学資格検定合格
アドバイザー教員（阿川尚之）

限界の旅

限界の旅—プロローグ—

それは僕の友達 O 君と H 君のたわいのない話から始まった。「無常ってどういう意味だろうね？」さっそく二人は辞書を調べる。無常 — 悟りを開くこと・無の境地に達すること・**限界**。「???限界ってなんだ」「今の世の中便利過ぎてよー、限界なんて状態普通じゃ味わえねーべ。」「じゃあさ、人間どこまで歩けるか、限界に挑戦してみねー?」「おういいねー」（あのときは若かった…）そんな感じでこの限界の旅は始まったのである。

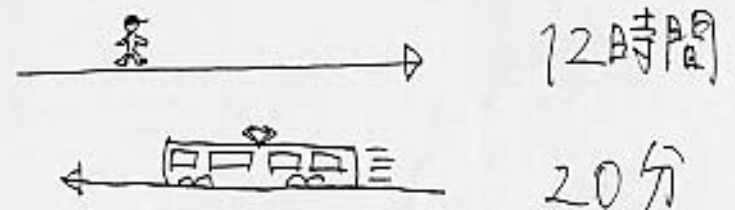
第1回限界の旅

人数5人・全徒歩行程約40キロ

1996年11月鎌倉市手広セブンイレブン AM3:33 出発

小田原駅 PM3 頃着 所要時間約12時間 電車で帰る小田原—藤沢 約20分

学んだこと：交通の便の良さ 人の温かさ 食べ物の大切さ



第2回限界の旅

人数5人（大磯から4人）・全徒歩行程約50キロ

1997年2月藤沢オデオン县境出発

深夜小田原付近で野宿・翌日朝一で箱根の温泉に入る

所要時間約20時間 やはり電車で帰る

学んだこと：限界状態によって人間が自分本意になること

第3回限界の旅

人数5人・全徒歩行程約15キロ

1998年8月鎌倉市手広セブンイレブン跡地 AM5:55 出発

距離が進まず茅ヶ崎ではやくも限界・茅ヶ崎から電車で熱海へ

学んだこと：（この第3回の旅が計画されたのが直前だったことより）

自分たちの計画性のなさ・熱海のサンビーチは人工のビーチ

第4回 海をいの道を歩む 僕(和田裕介)

第4回限界の旅

人数3人・全徒歩行程約100キロ

2000年3月6日手広 PM2:22 出発

7日 AM1:30 小田原3キロ手前で野宿 AM6時起床出発

箱根山登りに1日を費やす 芦ノ湖湖畔で就寝 8日 AM6時起床出発

県越えを果たし PM1:00 三島駅に到着

所要時間約47時間 やはり電車で帰る

学んだこと：人の暖かさ・「箱根の山は天下のけん」とは本当だった



もちろん限界の旅が全てではない。なぜここで限界の旅を大フューチャーしたのかというと、この旅のメンバーは僕にとってかけがえのない友達であり、こんな馬鹿げたことを大まじめでやってしまったことが素晴らしいと思ったからだ。今まで僕が得てきたもので自分自身について（つまり自分のよい面）っていうのはどうも自分ではつかめないものだ。しかし、僕は声を大にしていい友人と知りあえたと言えることができる。

できるだけ、がんばって、自分自身をとらえんとするならば、とにかく僕はいろんな可能性を信じるように努力している。多くの選択肢の中から新しい・アヴァンギャルドなことを選ぶよう努力している。